



生命溢れる季節です



ミニトマトの苗について説明する高柳場長。脇芽を取り、根が活着するように植えるのがコツです。



じゃが芋の畑では、大風でマルチが何列かはがされてしまい、修復するのも手間でした。



キジのつがい。左側の雌は色は地味で見つけにくいのですが、右側の雄はカラフルでとても目立ちます。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

★虫もカエルも鳥もみんな動き出しました

4月とは思えないような陽気が続いていてまるで夏のような暑さですね。その陽気のせい、野菜はぐんぐん育ち、虫もどんどん動き出し、田んぼではカエルがゲコゲコ鳴き、生命の躍動を感じます。

ナスやミニトマトの苗も大きく育ち、先週のキュウリに続き、先日ミニトマトも畑に植え付けしました。高柳場長の栽培指針は「原産地の事を思って育てる」ということ。「トマトの原産地は南アンデスと言われている、冷涼で乾燥しているところ。つまり、日本の夏は湿気が多く高温になるから本当は合わないんだよ。だからあまり水をかけず、また風通し良く育てるのが良いな」

また、春と言えば大風は当たり前なのですが、今年は例年よりも風が強く、多くの農家がマルチやトンネルをはがされてしまいました。この忙しい時期にマルチを張り直すのはとても手間なのです。春人参を作っている卓也さんは「トンネルをはがされたのなので何年ぶりだろう」と苦笑。「トンネルを風で飛ばされないようになって一人前」と言う人もいますが、新規就農者ならともかく、ベテランでもはがされる程の大風だったのです。「雨が降って土が重くなれば飛ばないんだけどね。今年は雨が降らなくて乾燥していたからね」

山の上の畑ではキジがあちこちで鳴いていて、仲良くお散歩しているつがいも。野菜には芋虫がつき、蜂やアブが飛び交い、バッタの赤ちゃんが出てくるなど、今年も生命が溢れる季節がやってきました。

【産地情報】

◎春人参は5月12日(土)から出荷開始予定です。